

4～よくできている 3～できている 2～あまりできていない 1～できていない ○成果のあったこと ●課題、改善が必要なこと

重点 目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)		自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)
				指標別	総合	指標別	総合			
学 力 の 向 上 ・ 授 業 づ く り (学が意欲と学が喜びのあふれる学校づくり)	① 児童が問いをもって学習し「わかる」「できる」「つかう」ことを実感する授業を展開する。	○ 学習習慣の定着 ・ 授業中の基本的な学習態度の共通理解(「立腰」の徹底) ・ 月目標達成のための具体的な取組	○ 教師の評価 「月別目標」 (4月 達成85%)	○ 4月の目標として職員に共通理解を図り、全校朝会で全児童に伝えた。教師評価では「チャイム合図 89%・授業準備 89%達成」であった。 ● 「忘れ物なし」に関しては 68%と達成できていなかった。	3	3.7	3.8	<input type="checkbox"/> 各種調査等の結果の分析をもとに、確実な学力向上に先生方が一丸となって取り組んでいただいていることに感謝している。 <input type="checkbox"/> 忘れ物なしの徹底については、自分で準備するとの意識付けが大切である。今後も継続して具体的な対策を講じていただきたい。 <input type="checkbox"/> タブレットを活用した授業や講習等、今後更に研修を深めていただくことを期待する。	<input type="checkbox"/> 本年度の反省をもとに、次年度4月にしっかり共通理解を図り取り組みたい。 <input type="checkbox"/> 次年度も計画的・継続的な個別指導に努める。 <input type="checkbox"/> 学力向上研の充実や一人一研究授業3回実施等授業力向上を継続する。 <input type="checkbox"/> タブレットの積極的活用を図るための研修を計画的に実施したい。	
		○ 基礎・基本の定着 ・ 計画的なスキルアップタイムの実施(校長・専科教諭の協力) ・ 児童の実態に応じた効果的な少人数指導の充実(支援員との連携)	○ CRT検査(3段階出現率評価2以上 90%以上)	○ 町非常勤講師3名による取出指導や町スクールアシスタントによる学習支援等により、困り感をもつ児童の学習内容定着に努めている。 ○ CRT検査(3段階出現率評価2以上) 国語 90.8% 算数 92.1% ※全校児童	4					
		○ 学力向上研修 ・ 各種調査等の結果の分析と指導方法の工夫改善 ・ 適切な仕掛けと見届けのある授業 ・ 「めあて」と「まとめ」の一体化 ・ ICT環境を生かした学習指導の工夫		○ 学校経営ビジョン具現化のため全職員が学力向上に問題意識をもち、授業改善への具体的実践を行っている。 ● 教育機器(タブレット)を活用した授業づくり研修や授業実践に取り組んでいるところである。	3					
	② 該当学年だけではなく長期的な展望(義務教育九か年)に立った指導に努める。	○ 小中一貫教育の充実 ・ 小・中合同研修会の充実 ・ 中学校入学を見据えた学習習慣の定着 ・ 特別支援教育の視点からの一貫教育の確立 ・ サマースクールにおける職員及び生徒の相互派遣	○ 職員へのアンケート (12月 達成80%)	○ 小中合同研は8/1、10/17の2回実施。キャリア教育年間指導計画を作成し、9カ年を見通した実践への意識化を図ることができた。 ○ サマースクールを7/25・26に実施。中学生と中学校数学教諭2名による6年児童への学習支援や本校職員2名による中1生への学習支援を行い、連携した実践ができた。	4					
		○ 読書の推進 ・ ファミリー読書・朝の読書・ボランティアや教師による読み聞かせの実施	○ ファミリー読書の集計 (毎月 達成80%)	○ ファミリー読書では月平均、児童 89%保護者 81%実施しているとの結果である。 ○ 10月に読書月間を設け、読書推進の取組を行った。	4					
			○ 家庭学習の充実 ・ 学習習慣の実態調査の実施・分析、手立ての構想 ・ 保護者への啓発	○ 保護者や児童に家庭学習の実態調査 (6月 達成80%)	○ 全児童の 84%が毎日の家庭学習に取り組んでいる(6月調査)。その結果をもとに懇談会資料を作成し、保護者への更なる啓発を行った。					4
③ 家庭と連携した学習や読書活動の充実に努める。			○ 現在の取組を継続していただきたい。 <input type="checkbox"/> 児童の読書傾向を踏まえた読書指導に努めたい。 <input type="checkbox"/> 次年度も6月に調査し、結果をもとに家庭学習の内容について学年間で調整を図る。							

4～よくできている 3～できている 2～あまりできていない 1～できていない ○成果のあったこと ●課題、改善が必要なこと

重点目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)	自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)
					指標別	総合			
児童理解・生徒指導の充実	① 日常生活における積極的な生徒指導の徹底を図る。	○ 先回り指導の徹底 ・ 校内放送の活用 ・ 落ち着いて学習できる環境づくり ・ 機を逃さない指導の徹底 ○ 見届け指導の徹底 ・ ろう下歩行やトイレのスリッパ並べなど、意図的計画的な指導、そうじだいすき週間での指導 ○ 基本的な生活習慣の育成(生徒指導月間) ・ 「廊下歩行」、「ほそいはし」、「履き物ならば」、「あいさつ」	○ 廊下の歩行や履き物ならべ等に関する常時指導及び記録(常時)	● 環境づくりに関しては学級差があるが、学年内または学年間で指導徹底の意識化を図るよう努めている。 ○ 生徒指導月間では、全校朝会時にプレゼンテーションを行い全児童への指導を行った。 ● 小中合同あいさつ運動を行い、「あいさつ」指導の意識化を図った。地域でのあいさつについては不十分な面も見られる。	2	2.9	3.5	□ あいさつの推進については、地域を巻き込む対策が必要である。あいさつの必要性について認識を深める機会があるとよい。	□ 年度当初の共通理解事項を確認し、全職員で実践できる体制をつくる。 □ 職員のあいさつも児童の手本となるよう心がける。
	② ボランティア活動やその他の体験的活動を通して思いやりの心や感謝の心を育てる。	○ 係活動や委員会活動の充実 ・ 委員会からのお知らせやお願い、掲示物の充実及び点検、指導 ・ 係活動充実への計画的な自治活動推進 ○ 体験活動や奉仕活動の取組 ・ 6年生を中心とした朝のボランティア活動の推進 ・ 2～6年による幼保交流の実施	○ 教師へのアンケート(学年末 達成80%) ○ 児童へのアンケート(2月末 満足80%) ○ 児童へのアンケート(満足80%)	○ 委員会活動81.3%で、数値目標では概ね達成された。 ○ 6年のボランティア活動は他学年児童の模範となっている。 ○ 幼保小の交流活動は活動内容を工夫し、計画的に実施している。	3			□ ボランティアについては今後も継続して推進していただきたい。	□ 委員会活動アンケートをもとに次年度の委員会の在り方を考え、更に充実した編成を行いたい。 □ ボランティア活動や幼保小の交流活動は次年度も計画的に実施する。
	③ 組織力を生かし、いじめ・不登校の未然防止に努める。	○ 生徒指導上の諸問題への対応 ・ 「育みの会」での情報交換と具体的対策の実践 ・ 放送を活用しての声かけ ・ ケース会議の実施 ・ 特別支援教育コーディネーターとの連携 ○ 全児童対象の教育相談	○ 「育みの会」「ケース会議」で共通理解された児童の変容(学年末)	○ 問題事案を速やかに連絡・報告する体制をつくり、育みの会で全職員に共通理解を図っている。 ○ 月1回の教育相談から、児童の悩み等を聞き、指導に行かしている。	3			□ 小さいトラブルを見逃さない姿勢を継続していただきたい。	□ 気になる児童についての全体での共通理解のタイミングを逸しないよう学年会等で、適宜、共通理解を図る。
	④ 特別な配慮を要する児童への支援を一人一人の教育的ニーズに対応し、いじめや差別のない学校づくりに努める。	○ 特別な配慮を要する児童への指導及び支援体制 ・ 特別支援教育に関する研修会の実施 ・ 教育支援員の有効な活用 ○ いじめや差別を許さない学校づくり ・ 学校全体で、いじめを絶対に許さない雰囲気づくり ・ いじめ悩み相談の実施 ○ 人権教育の推進 ① 児童の人権意識の高揚 ・ 12月の人権集会の実施 ② 職員の人権意識の高揚 ・ 夏季休業中の研修会の実施 ・ 12月の町人権教育研の実施	○ 職員へのアンケート(2月末 満足80%) ○ 相談カードの活用及び教育相談の実施と問題発見後の確実な解決及び経過観察(随時) ○ 職員へのアンケート(研修後 満足 80%) ○ 職員へのアンケート(研修後 満足 80%)	○ 研修を重ね、児童理解や対応に生かしている。 ○ 教育支援員による児童・保護者の教育的ニーズ対応を行っている。 ○ 小1プロブレム解消に繋ぐ幼保小連携交流を計画的に行っている。 ○ いじめ防止基本方針をもとに、連絡体制の周知徹底を図り、即対応できるように心がけている。 ○ 児童や保護者対象のいじめに関するアンケートを行い、情報収集や共有、指導への効果的活用を図っている。 ○ 本年度は特に「LGBT」に関する小中合同研修や町人権教育研修会を本校で行い、町内職員の人権意識の高揚に努めた。 ○ 性の多様性に係る実践として、性で分けない名簿作成や運動会時の男女混合での整列等具体的な取組を行っている。	3			□ 特別支援教育や人権教育の推進については、今後も研修や情報共有等、継続して取り組んでいただきたい。	□ 教職員の資質向上につながる研修を企画・実施する。 □ 幼保小連携交流を今後も継続する。 □ 次年度も小さなトラブルを見逃さず、迅速な報告と確実な初期対応に心がけたい。 □ 次年度は学活の年間指導計画に位置づけた「LGBT」の取組を実践していきたい。

（明るく活気あふれる学校づくり）

4～よくできている 3～できている 2～あまりできていない 1～できていない ○成果のあったこと ●課題、改善が必要なこと

重点目標	ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント (結果の考察・分析)	自己評価(評定)		学校関係者 総合評価	学校関係者のコメント	次年度への改善策 (自己評価より)
					指標別	総合			
信頼される学校づくり・連携 (学校評価制度の効果的運用と家庭地域との連携強化)	① 地域に貢献し、地域から感謝されるような学校づくりに努める。	○ 地域行事への参加 ・ 地域行事への参加依頼への積極的協力と呼びかけ	○ 教育過程評価 (12月実施 満足80%)	○ 具体的な取組として、各種地域行事への積極的な作品協力や2年読み語りの生涯学習フェスティバル参加、こゆ朝市(こゆ財団)との6年協力等があった。満足 70.2 %で、昨年度より意識が 20 %程上がっている。	3	3.2	3.5	□ ホームページに関しては、他地域の方々の閲覧も多い。興味あるテーマや内容のアップを今後もお願いしたい。	□ 「開かれた教育課程」を具現化する上で、今後も地域に根ざした教育活動を行いたい。 □ ホームページ更新はタイミングよく発信できるよう担当が責任をもつ。
		○ 積極的な情報発信 ・ 学級・学年通信、学校通信の定期的な発行 ・ ホームページの内容の充実と定期的な更新 ・ メール配信システムの構築と適切な運用	○ 教職員へのアンケート (2月 満足 80%)	○ ホームページの定期的な更新や行事内容の通知(宿泊学習・修学旅行)、緊急時の安心メール配信等で情報発信を行っている。 ●更新のタイミングが遅れることもあった。	3				
	② 地域人材の授業等への積極的参加の依頼と、いつでも誰でも学校へお出でいただける環境づくりに取り組む。	○ 参観日や学校行事の充実 ・ 1か月前の参観日の案内とホームページへの掲載 ・ 魅力ある授業参観や学級懇談づくりのための実践	○ 保護者へのアンケート (12月実施 満足80%)	● 授業参観率は 70 ~ 90 %で低学年が高い傾向にある。懇談については全学年 60 %程度で参加者も固定化している。	3				
	○ 地域人材や外部講師の積極的活用 ・ 学校支援ボランティアの募集と授業や校外学習等での積極的活用 ・ 総合的な学習の時間における外部講師の積極的活用	○ 教育過程評価 (12月実施 満足80%)	○ 家庭科学習支援(5年ミシン)や総合的な学習の時間での外部講師(こゆ財団)活用、登下校や校外学習移動時の見守り等を実施し、効果的な活用が図られている。	3					
③ 学校評価制度の効果的な活用を図る。	○ 効果的な学校関係者評価委員会の開催 ・ 評価委員の授業参観や学校行事への参加の案内促進 ・ 客観的データに基づいた自己評価の実施とそれに対する評価委員からの評価 ・ 評価委員からの評価の職員への周知と具体的改善策の構築と実施(PDCAサイクル)	○ 各会での評価委員からの評価及び意見	○ 本年度から富田小・中合同での学校関係者評価委員会を実施した。小中別での評価ではなく、小中一貫した学校教育の推進状況についての評価となり、概ね満足いただいている。 ○ 年間4回の開催であった。 ①小中合同 ②小学校 ③中学校 ④小中合同回数や実施時期については概ね満足いただいている。	3	□ 学校関係者評価委員会の持ち方については、本年度の小・中合同スタイルで次年度も進めていただきたい。	□ 次年度も本年度と同様に小中一貫した学校評価を実施したい。 ※実施回数4回			
④ 地域とともに命の大切さを第一に考える学校づくりに努める。(特に地震→津波を想定)	○ 命の大切さを考えた学校づくり ・ 避難訓練や集団登下校の実施 ・ 「命を守る集会」の実施 ・ 「各避難訓練」の実施 ・ 「家庭と学校が防災について考える会」(9月)の実施 ・ 地震・津波に対する防災教育の充実	○ 大地震や津波災害発生時における登下校時の避難場所の確認	○ 地震による津波対応については小中合同で避難訓練を行った。小中間の連携強化を図る有効な機会となった。 《避難方法》中学生が富田小校舎に移動し、3階に避難する。	4	□ 今後も継続して、避難訓練の充実に努めていただきたい。	□ 次年度は風水害の避難訓練について、地域・保護者と協力した避難体制を考えていきたい。			